

試験に出る問題に隠された 数々のキモを学んで帰ろう!!

独学よりも圧倒的に
短時間で合格率アップ!!

スクールでの申請を済ませたら、まず最初に学科講習を受ける。試験勉強は独学でも可能だが、スクールの授業は試験に出る問題に隠された数々の「キモ」を教え、てくれるため、独学よりも効率よく勉強ができる。たった1日の授業と侮ることなかれ! 要点をおさえたスクールの授業を受ければ、1日で学科の合格率は限りなく100パーセントに近づける。

授業の項目は大きく分けて4項目ほどの項目で勉強することも、知らないままポートに乗れば、命を落とすことになりかねない重要な内容だ。免許を取った後のことも見据えて、しっかりと授業に耳を傾けよう。



今回講習が行われたのは、中央自動車学校の学科講習会場。受講生は約20名。講習は午前9時から午後5時までの1日で行われ、試験問題に隠れたキモも学べる。

その1

操縦者の心得 及び遵守事項

キャブテンになるには、清く正しい心持ちが必要

常識人なら考えなくてもわかる!? 船長の心得

この項目で何を学ぶのかというと、まずは船長の心得。水の上では道路のような移動範囲を制限するものもなく、随でいうところの信号や道路標識も任意的に少ないので、航行中は安全で周囲に迷惑がからぬことを自身で判断しなさいといふことが多い。その判断力を養うための授業がココで行われる。その他にも、海や湖に出た時に注意して通らなければならない漁具の種類や、水の上のルール(遵守事項)を破った場合に受けるコワイ罰則の数々なども、この項目で学ぶ。

漁師たちが使用する漁具や漁法もお勉強!!



右のイラストが「はえ縄」で左が「刺し網」。名前は何かとなく聞いたことのある漁具も、イラストで改めて実際のカタチをお勉強。

学科講習は少人数制で行われる。講師の神田さんと距離が近いので、内容のひつひつとつを聞き流さずに集中して講習を受けられる。

例題①

Q 小型船舶で航行する場合の注意事項として適当でないものは、次のうちどれか。

- (1)さまざまな人が同じ水域を利用していることを頭に入れておかなければならない。
- (2)基本的には自分自身であらゆる事象に対応しなければならない。
- (3)霧や雪などで視界が制限され、自船の位置がわからなくなってしまう場合がある。
- (4)速力の制限がないので、自分さえ安全ならば高速で航行してもかまわない。

答え.(4)

この問題は(4)が正解。周囲を無視した自分勝手な高速航行はNGだ。こういった変りをする人は船長失格であります!

例題②

Q 港内における一般的な航法として誤っているものは、次のうちどれか。

- (1)航路内では、海難を避けようとするときや人命救助をするときなどを除き、投錨してはならない。
- (2)汽船が港の防波堤の入口付近で他の汽船と出会うおそれのあるときは、入航船は防波堤の外で出航船の進路を避けなければならない。
- (3)港内及び港の境界付近においては、他の船舶に危険を及ぼさないような速力で航行しなければならない。
- (4)港内において、防波堤の突端を左舷に見て航行するときは、できるだけこれに近寄って航行しなければならない。

答え.(4)

港の中での交通ルールを知らなければ答えが(4)だとは判断不能。この場合、防波堤の突端に近寄らずに、遠ざかりながら航行するのが正しい。

その2

交通の方法

水の上での交通ルールはともかく、複雑なので要注意!!

陸上と違った水の上での交通ルールが存在

お次の項目「交通の方法」はこの項目では、名前のとおり水の上での交通ルールを学ぶ。例えば「左から大型船が高速接近して衝突しそうになったら?」「狭い水道などのわん曲部を航行する時には?」といった具体的な例をあげながら、それに対して「どう判断してどう航行するか?」を学んでいく。しかも、同じ水の上でも、港の中や船の行き交いが激しい場所では、その場所独自のルールも存在する。なかなか一筋縄ではいかないで大変だ。

日本のクルマ社会で使う交通ルールとは逆の右側交通



水の上では右側通行が基本!!



講師 神田義久

今回、学科長英技を担って頂いた経験講師の神田さん。大の釣り好きということで、ブログ「釣り好き親父の釣り術」(http://blogs.yahoo.co.jp/yoshimimaru08)で日々の釣果を報告中。